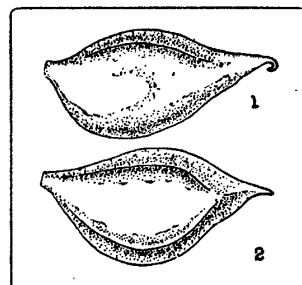


ハクウンボク、アブラチヤン、サバダツ、コアヂサキ、ヤマアヂサキ、オホバクロモチ、オホバケクロモチ、ベニツクバネ、ガクウツギ、コムラサキ、ヤブムラサキ、シロモチ、コミネカヘデ、イモノキ、ツリバナ、クサギ、バイクワツツジ、ネヂキ、シラキ、フヂウツギ等なり、蔓本にはミツバアケビ、サルナシ、マツブサ、ツタウルシ、アマヅル、ゴトウヅル、等あり、草本にはテバコモミヂサウ、ツクシイハカガミ、イガホホヅキ、バイケイサウ、ホクチアザミ、ウスヒメワラビを著しき分子となす。

キツネノボタンとケキツネノボタン

大井次三郎

日本産の植物中凡そキツネノボタン程 Nomenclature の面倒なものは澤山はあるまい。此のキツネノボタンとケキツネノボタンとの學名については兎も角としてその両品の區別は、牧野博士が植物研究雜誌第七卷の歐文欄 31 頁にキツネノボタンは毛茸が比較的少い事が多い上に瘦果の先端の嘴部が鈎狀に曲ると指摘して居られる。此れによつてはつきりと區別が出来るのでその上に蛇足を加へるには及ばないが、腊葉で見ると瘦果の形にも可なりの相違點が認められる。挿圖の 1 はキツネノボタンの瘦果で全形は稍卵形をなしその上側には中肋に沿ふて一條の隆起が認められるが下側の縁邊には之がなく唯中肋があるだけである。之れに反してケキツネノボタンは挿圖の 2 にも見る様に全体が多少巾の広い倒卵形に近くなりその縁邊には上側にも下側にも各一條の隆起線があつてその断面は丁度六角形を極端に押しつぶした様になつて居り、その點ではむしろヲトコゼリヤシマキツネノボタンに似て來る。キツネノボタンは比較的北方に多く北海道南千島にもあるが、ケキツネノボタンはどちらかと云へば暖地を好み台灣では此植物しかないらしい。



1 キツネノボタン

2 ケキツネノボタン

莎草科植物雜記 4

大井次三郎

16) ホタルキとその近似品

ホタルキ及びその近似品は従來 C. B. CLARKE によつて世界で唯一種 *Scirpus erectus* POIR. のみとされて居たのであるが、私は久しい以前から此事について疑問があつ